



期待される臨床検査室をめざして

臨床検査室 塩野谷隆義

昭和45年中央病院開院以来当臨床検査室では、常に緊急検査への迅速な対応、正確なデータの提供に努めてきました。以来40年、常に、小回りの利く検査室を目指し、臨床の要望に応えながら、時代とともに今の臨床検査室を築いてきました。

臨床検査システムの効果

近年のトピックスとしては、平成18年度に新たな臨床検査システムを構築したことです。以前は、生化学自動分析装置「日立 7150 型」を中心にワークシートを作成して分析後、FAX送信で緊急検査の報告を行っていました。その後機器の老朽化に伴い新たにリース方式により、後継機種「日立 7180 型」生化学自動分析装置及び、免疫検査自動分析装置「ルミパルス f」を組み込み、血液検査を含め新しく日立臨床検査システムとしてスタートしました。

この新しいシステムでは、バーコードリーダーによりワークシートを必要とせず、生化学・免疫分析の迅速化が可能となり、血液検査を併せてシステムでのデータの承認が終了次第、緊急依頼検査は依頼元にFAXで自動転送され、同時に外来や病棟及び医局の端末器で、いつでも確認することが出来るようになりました。



デジタル化の効果

生理検査部門での大きな流れとしましては、脳波検査のアナログからデジタル化へ移行したことです。平成14年度に初めて日本光電のデジタル脳波計が導入され、業務の効率化を進めることが出来ました。記録紙による脳波データの保存からMOディスク及びハードディスクへの保存に移行したことで、スペースの問題も解決しました。判読医の立場からは、記録データを任意のパターンや条件設定の変更が可能となり、脳波判定により有効な手段となりました。また、デジタルポータブル脳波計の導入により、病棟でのビデオ撮影による脳波検査が可能となり、終夜脳波も含め脳波診断上の一助となりました。

病院の理念と基本方針

理念

私たちは
成長や発達に支援を必要とする人たちに、
最善の医療を提供するように努めます。

基本方針

- 心とからだの成長・発達に影響する子どもの疾患を総合的に診断し、予防と最新の治療を専門的に行います。
- 胎児期から成人までを対象とし、患者さんの目線に立ったやさしい安心できる治療を行います。
- 患者さんが自立した生活ができるよう、在宅支援や地域との医療連携を推進します。
- 成長・発達に影響する病気の原因追究および治療法の開発を、発達障害研究所やこぼと学園と協力して進めます。

検査室の工夫

- ①採血量微量化：分析装置の微量化対応により負担の軽減。
- ②耳朶採血：血液検査・CRP検査の検査室対応。
- ③絵カードによる生理検査：自閉症児への対応。
- ④心電図：貼り付け用電極を小児用にカットして使用。
- ⑤新生児ABR検査：検査後病棟への患児送り届けによる看護師の負担軽減。

第28回小児臨床検査研究会開催



平成20年10月12日(日)、全国の小児専門病院の臨床検査師及び検査部長(医師)70名が参加した研究会を開催しました。この小児臨床検査研究会を、コロニー中央病院検査室が担当することが決定して以来1年間、おりしも、団塊世代の退職期を迎え、世代交代や臨床検査運営の問題が浮上する中、いかにコロニーらしい研究会が開催できるか悩みながら準備を進めてきました。その中で、特別講演「自閉症に向き合う医療」及び教育講演「新生児脳波」をそれぞれ吉田副院長、鈴木小児神経科医長にお願いし、コロニーの特色に沿った講演を戴き会員相互の研修に大いに寄与されました。また、パネルディスカッションにおいては、以下の内容で討議し、検査技師全員の共通課題として意識を高め、新しい時代へ向け考える“小児臨床検査研究会”となりました。

◎事前に作成したアンケートの調査結果報告：コロニー中央病院

- ①臨床検査運営にかかる現状と問題
- ②日常小児臨床検査における取り組み
- ③チーム医療への参加
- ④効率的な運営における工夫
- ⑤臨床検査技師のスキルアップへの取り組み

◎立場の異なる4病院の現状と課題及び日常の検査くふうの報告(1,独立行政法人、2,独立法人化に向け24時間体制、3,小児総合医療センター開設への取り組み、4,地方公営企業法全適用病院)



北京パラリンピック観戦記～現地まで行ってきちゃいました!～



2008年9月6日～17日、中国ー北京で北京パラリンピック2008が開催されました。オリンピックのすぐ後です。この大会で日本は金メダル5個、銀メダル14個、銅メダル8個というすばらしい成績を残しました。

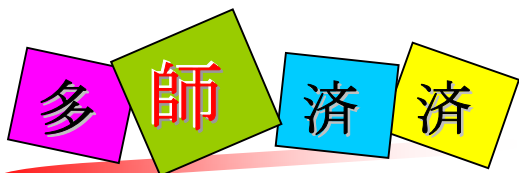
今大会の種目数は20種目で、有名なものに車いすバスケットボールや、車いすテニス、水泳や陸上あげられます。中でも車いすテニスでは、男子シングルスで国枝慎吾選手が日本人初の金メダルを獲得するほど!現地では彼と少しお話することができたのですが、「金メダル取りますよ!」と、自信満々の輝いた顔が印象深かったのを覚えています。

現地の中国の印象はというと、とにかくすごい人!ということでしょうか。メイン会場のオリンピックグリーン内にある「鳥の巣」や「ウォーターキューブ」観賞目的の中国の方で、オリンピックグリーン内は歩くのも大変なほどでした。その上、今回のパラリンピックはセキュリティが強く、どこの会場に入るにも手荷物検査や身体検査があり、オリンピックグリーンに入場するだけでも30分以上はかかるのです。確かに、「鳥の巣」や「ウォーターキューブ」はとても美しく、圧巻です。

会場内は各国の応援団や現地の方々の応援ですごい熱気。自然に気持ちも高まります。特に日本戦では、持っていった“JAPAN”Tシャツをぶんぶん振り回しながら応援していました。どなたか、そんな私をテレビで見つけた人はいませんか?

1週間の観戦ツアーでしたが、いろいろな競技を観戦し、いろいろなところを観光しました。この文章では伝えきれないほどです。興味を持った方、ぜひ相談室までいらしてください。“熱く”語りましょう!(相談部 森 祐美子)





認定看護師紹介

当院で活躍中の3名の認定看護師を紹介します。

<p>感染管理 (Infection Control)</p>  <p>脇 眞澄</p>	<p>取得に要した期間 6ヶ月 取得年月日 2008年7月13日 認定看護師を取得しようとした理由あるいは動機 何故か7年ほど前に感染対策委員に任命されてしまった(ずいぶん後ろ向きでした)ことが感染対策との出会いでした。その後、感染対策に関わる様々な研修に参加しました。その研修の中でいかに自分が感染に対する知識を持っていなかったのかと感じ、また当院の感染対策の遅れを実感しました。そこで「このままではいけない。誰かが何とかしなくては！」と一念発起し取得に向けて計画を立てました。(前向きに変わりました) 認定看護師として今後病院で実施したいこと(抱負) 「病院に関わるすべての人々を感染から守る。」ことです。患者様はもちろんのこと、医療従事者に限らず病院に出入りする業者を含む全ての職員を感染から守ることです。全ての人々が同じ認識で感染に対して動じることなく対応できるようになることが感染管理認定看護師の願いです。そのために病棟巡視や看護職員対象の勉強会などを中心に活動していますが、感染対策が手洗いに始まり手洗いに終わることを基本に行っています。</p>
<p>認定取得に要した期間 (6ヶ月) 取得年月日 2008年6月1日 認定看護師を取得しようとした理由あるいは動機 食事を楽しそうに食べている子供たちの笑顔は素敵です。見ているこちらまで元気してくれます。しかし、入院している子供たちの中には上手に食べることができない子供たちもいます。なかなか上手に食事をとれない姿をみて、私たち医療者が今よりも良い関わりをすることで、少しでも食事を楽しむことができれば良いなあと考えて、摂食・嚥下障害看護の認定看護師を目指しました。 認定看護師として今後病院で実施したいこと(抱負) コロニーには、病気によって障害を抱えている方が子供から成人までいらっしゃいます。その中でも、摂食・嚥下障害という症状のある患者さんは少なくありません。摂食・嚥下障害という症状を軽くしていくことは、その方たちの発達障害やQOL、治療に関しても大きな変化をもたらしてくれるはずで。患者さんやご家族、関わってくれるスタッフ共に少しでも「食事を楽しめる」ように頑張っていきたいと思ひます。</p>	<p>摂食・嚥下障害看護 (Dysphagia Nursing)</p>  <p>佐久本 毅</p>
<p>皮膚・排泄ケア (Wound, Ostomy and Continence Nursing)</p>  <p>木村 智靖</p>	<p>取得に要した期間 9か月 取得年月日 2008年6月1日 認定看護師を取得しようとした理由あるいは動機 当院は二分脊椎患者様も大変多く、褥瘡や直腸・膀胱障害をケアする割合も多い。専門分野の知識・技術を身につけることは所属病棟だけではなく、他科・他病棟にも知識・技術を提供できると考えたことや、障害がある方との関わりの中で、トータルケアを目指すためチーム医療プログラムを計画し運営していくためには専門性をもつ看護師の役割も重要である。医学的・教育的観点から遂行される「療育」を展開しているためには、社会的・精神的・経済的問題の発生も予測されるため、各領域にまたがる看護師の役割がもっとも重要であると考え志願しました。 認定看護師として今後病院で実施したいこと(抱負) スキンケアと排泄ケア分野において患者様ならびに御家族がともに満足を得られるケアを実践し、私自身が得た知識・技術を提供することで、スタッフ皆様のスキルが向上できたら良いと考えております。まだまだ未熟者ですので、今後も自己研鑽に励み、より良い看護実践が展開できるよう頑張りたいと思ひます。</p>

～ コロニー開設40周年記念 ～ (共催 愛知県自閉症協会)

「自閉症シンポジウム2008」開催のお知らせ

・日時：平成20年12月14日(日)13時～16時半 ・場所：鯉城ホール

・講演：「自閉症の生物科学的な診断方法の開発に向けて」

コロニー総長 仙波禮治

・シンポジウム：「包括的見地から自閉症診断を考える」

・特別講演：「初診・診断の意義とそれまでにできること」

③中央病院だより No.8 平成20年10月発行発達センター長 高橋 修氏

*参加申込方法は、中央病院ホームページをご覧ください

コロニー運用部療育支援課 0568-88-0811 (2215) に問い合わせ下さい



9月17日、名古屋大学吹奏楽団による「秋のあしおとコンサート」が開かれ、多くの患者さんやご家族の方が